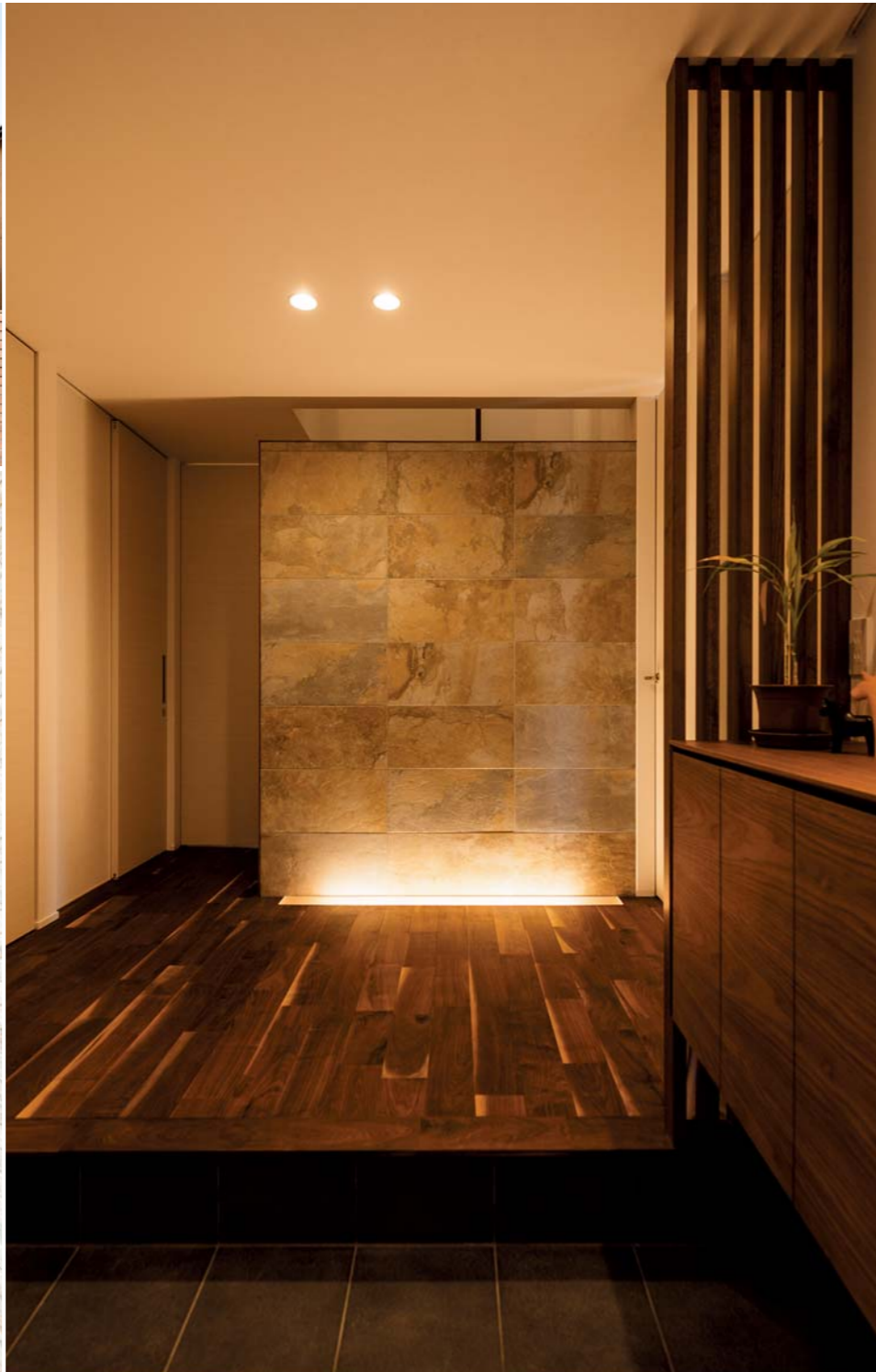


お子さんが生まれて、家づくりを考え始めたTさん。ビルダーを決めるにあたって、まず重視したのは、デザインだった。手始めに訪れた住宅展示場で、「いいかな」と思ったハウスメーカーに住所を書いたところ、畳み掛けるように建てた家を案内されたが、気持ちを決めるには至らなかった。次に訪れたビルダーのモデルハウスでは、落ち着いたトーンでデザインには大きく引かれたものの、「床は無垢の木にしたい。タイルも使いたい」と要望を伝えると、「つひとつがコストに跳ね返り、予算を超過してしまった。

改めて「デザインとコストのバランスのいいビルダーはないだろうか」と探し、行き着いたのがディテールホームだったという。「床だけではなく天井にも一部、木を使用した、造作で家具をお願いしたい、という要望を含み込んでも、納得の見積もりでした」。ディテールホームはデザインのクオリティを保ちつつ、既製品を上手に組み合わせながらコストバランスのいい家をつくることを強みとしている。しかも、提案された間取りが、二人のイメージを見事に形にしていたとT夫妻は言う。リクエストしたのは、広いLDKと家事動線のいい間取り、そして1階に広めのウォークインクローゼットを設けることだった。「家に戻ったら、その足で着替えてリビングでくつろげるようにしたかった」とはご主人。こうして、二人の暮らしの具体的なイメージが盛り込まれた間取りをもとに、家づくりが始まった。

右頁／リビングからダイニングキッチンを見る。高天井にしたリビングは開口部を抑えて落ち着ける雰囲気。対するダイニングは大きな窓からウッドデッキ、庭につながって開放感抜群。左頁・右／玄関を入ると正面には石スタイルの壁。三条モデルハウスを見たTさんが気に入って採用へ。左上／道路から見た外観。木を組み合わせてアクセントに。左下／ゆったりとした雰囲気を出すために、アプローチはあえて長くし、壁と天井に木をあしらった。



光を操り、開放感と広がりに住まいに

何よりもまず「デザイン」にこだわったというTさん。できあがった住まいには、昼も夜も印象的な光に包まれる中、デザインとともに納得のコスト、性能と使いやすい動線が備わっている。

ディテールホーム
／坂井建設株式会社
新潟市江南区T邸
木造軸組工法 | 工期120日 | フリープラン

南側に面した理想的な立地。道路に立つと、陽光を存分に取り込めるように、随所に開口部が切り取られている。ただし、よく見ると手前には木製のフェンスが立ち、正面中央の壁、リビングの理想的な場所に設けられた窓は、細長いスリット状だ。「光と風を取り込むのは大前提ですが、同時に南側が道路に面していることからプライバシーを確保する必要があり、この間取りを提案しました」とは設計を担当した松井さん。開放感を持たせながらもほどよく閉じる、そんな設計の効果は、実際にLDKに入るとよく分かる。

リビングベースとダイニングキッチンがL字型になったLDK。床にはウォールナット、リビングとダイニングキッチンの天井には明るい色のオークが張られ、白を基調にした空間に温もりと穏やかさを加えている。ダイニングキッチンには掃き出し窓からの光が大きく差し込み、リビングベースはTVボードの両脇に設けられたスリット窓から、効果的に光が入り込む。ソファに座れば、正面に白いタイルの壁、段高くした天井の効果も手伝って、ゆったりリラックスできるだろう。「春になって庭に

芝が張られれば、掃き出し窓の向こうに緑が見えて、もっと気持ち良く外と室内がつながるはずだ」と松井さんは、外と一体となる室内の広がり、丁邸の大きなポイントだと話した。

数週間前に引っ越したというTさんに、暮らし始めた感想をうかがうと、「想像以上に暖かくて快適です」と奥さま。実は、ビルダーを探し始めた当初は「暖かい家」を探していたという。「そのうち、暖かければいいというものでもなく、デザイン重視でディテールホムさんを選びましたが、実際に住んでみたら、ドアなどを開け放してもまったく気にならないんです」。結局、取り付けた最新型のエアコンもつけることなく、温水ルームヒーター一台で過ごしているという。

そんな暖かい家で、リビングからキッチン、玄関へとつながる行き止まりのない動線を、ぐるぐる走り回って遊ぶのは2歳のYくん。「Yくんのおかげで、打ち合わせはいつも笑いでいっぱいでした」、営業担当の宮越さんがそう言うと、「楽しかったですね、打ち合わせ」とT夫妻。楽しくつくりあげた家には今、明るく賑やかな声が響いている。



床にはウォールナット、リビングとダイニングキッチンの天井にはオークを張ったLDK。無垢材やタイルなど、素材そのものの個性を活かし、シンプルでありながらも高級感のある雰囲気。

